

## M E E T

## Miyako Environmental Education Times

発行：環境教育プロジェクト

平成25年(2013年)1月1日(火)



第64回の「環境教育ミーティング」は長岡京市の後援をいただき、長岡京市立公民館と共催で11月22日(木)に開催しました。

岡本民夫様には「西山の自然と文化～四季折々の映像を通して～」と題して、これまで、西山を歩き、西山の魅力に魅せられ、四季折々の写真を撮ってこられた映像を通して、お話しいただきました。

## 参加者の感想

### 1

岡本先生が今まで携わってこられた水俣病はじめ多方面にわたる幅広い地域、行政とのかかわりに圧倒される思いで、お話を伺いました。まさに、「行動する学者」。

始終一貫して”地元学“を強調されていましたが、その姿勢を貫いてこられた先生におこがましい言い方ですが人間として大変暖かなものを感じます。お話を伺い、自分の住む地域の文化をもっともっとよく知り、地域活動を更に取り組んでいかねばとあらためて感じた次第です。

### 2

先生のお話を聞き、私たちは西山を「森そのもの」と捉えませんが、先生は、里山からの恵みを受けて生活する「長岡京市全体」について考えてくださっているのだな、と思いました。普通に生活していると見過ごしがちですが、外から見る長岡京市にはまだ知らない様々な文化的価値があるのかもしれないと感じました。それを探したり、伝えたりしていく方法について、これから市民や外部の方も加わって取組みが進めば、興味深い発見がたくさんあると思います。地道で長い作業になると想像しますが、先生のひらめきや工夫で、ますます環境活動や文化活動にも活気が出るのではないかと期待がふくらみました。

### 3

京都西山の文化に着目されているので興味深かったです。

西山森林整備推進協議会では、京都西山を愛宕山から天王山まで話しています。

これを機会に「史跡探訪・京の西山」1982年京都新聞刊を拾い読みしてみました。

この本の西山は北は双ヶ丘、梅ヶ畑から入っており大変範囲が広いです。大原野、長岡、大山崎は別章になっていますが、全体の3分の1ぐらいの分量です。

長岡の章での登場人物は桓武天皇、空海、菅原道真、細川藤孝(幽齋)、細川忠興・玉(ガラシャ夫人)、法然、熊谷蓮生房が主なところですが、

長岡京発掘のことはありますが、中山修一先生ことは載っていません。どうも義満の金閣(北山文化)、義政の銀閣(東山文化)に比べると旗色が悪いです。



### 4

西山は長岡京市に住む我々にとっては大変身近な存在で、自然の恩恵を日々受けながら生活しているので愛着も強いものがあります。

京都では同じ山が付いても、「東山」や「北山」が全国的に知られているのに対し、「西山」となると、かなりマイナーな存在であることから少し寂しい思いをしてきました。



今回、岡本先生のお話を伺って、「西山」をもっと多くの人に知ってもらう為のアプローチについて、ヒントを幾つかいただけたと感じました。

自然については東山や北山と遜色があるわけでもないが、文化については差が大きいのかなと感じていました。しかし、イメージが確立していないと感じられる「西山文化」についても、お話のあった地元学としてのアプローチ、「見る」、「聞く」、「話す」、「記録して継承・伝達していく」を駆使して展開していけば進展が期待できそうと感じた次第です。

現状では散逸していて体系付けられていない「西山の自然と文化」に関して、これから岡本先生を初め識者の方々が一読者シップを取っていただき、具体的な行動が開始されれば、西山地域の皆さんに新たな楽しみが生ずると期待しています。

## 5

京都東山文化に対して西山文化と言われていたことに驚きました。

今まで、西山を東山と比較してみたことがなかったので、「なるほど」と、考えてみると、どちらも歴史上重要な役割を果たしていることに思い当たりました。

人間は環境の中で暮らし、新しい文化を生み出しています。

その真っ只中に自分の存在があることをあらためて実感できました。

また、写真は誰にでも残せる簡単な記録の方法で、それを色々な角度からアプローチすることが大切であるということについて、さっそく実践してみようと思います。

## 6

西山の自然を背景に、東山、北山とは異なる文化を気付かされ、ミーティングの中で「西山列伝」を思い浮かべていました。

『古事記』に出てくる圓野比売命(まとぬひめのみこと)、

今里・井ノ内のあたりに弟国宮を造った継体天皇、平城京から長岡京そして平安京へと都を移した桓武天皇、平敦盛を討った武将の熊谷次郎直実、更には天王山の戦いをめぐる明智光秀、細川忠興・玉夫妻などが思い出されました。



## 7

先日の環境教育ミーティングで福祉やまちづくり等様々な分野で活躍されている岡本先生のお話を聞くことが出来て大変勉強になりました。講義の中では西山の文化を写真を通じて紹介していただき、京都には東山文化と同様に西山にも素晴らしい文化が存在していたのだと改めて思いました。今後、西山文化をもっとアピールしていけば文化を保全する活動と並んで周りの環境も守っていけるのではないかと思います。

## 8

当地に住まいし半世紀、現役時代は身近な自然や環境に興味を持って見るのが少なかった。今回、岡本先生の具体的で楽し

い話からしっかりとした目で見つめてみたい気持ちになりました。

長岡京市の自然は？西山の文化・京都の文化・日本の文化は？また竹の文化は？と色々な視点から詳しく見ることの重要性について話して頂きました。地元、足元から環境や文化を見て考え行動することの意義と大切さを学ぶことも出来ました。「長岡京市環境の都づくり会議」のメンバーの一員として、守り伝えられてきた自然環境と生き物たちそして人の生き方としての歴史文化を大切にしたい日々の活動となるよう工夫したいと思わずにはられません。

また、エコチームの日常活動の中にどのように取り入れていくか一生の興味あるかつ重い課題を頂くことにもなりました。

それは日常生活そのものでしょうか？貴重な一夜でした。有難うございました。

## 9

今回のテーマは「自然と文化」です。私は「文化的に考えることは難しいこと」と感じていました。

本日の講師の岡本民夫先生は自分の目線で文化を感じればよいと話されました

1. 身近な出来事への好奇心と関心。  
2. 気づきの力と発見力。

3. 具体的な事象としての植物、動物、水、河川。

4. 地元学としてのアプローチ

また京都文化の特徴として、

1. 和風庭園、書院造、和室。

2. 和食(懐石料理、本膳料理)

このようにお聞きしますと私も京の文化に接しており、関心をもっていると気づきました。

これからも「京の文化に接し、興味を深めたい」と思いました。ありがとうございました。

